

UR都市機構と連携・協働協定

道内大学として初！地域活性化に貢献する人材育成へ



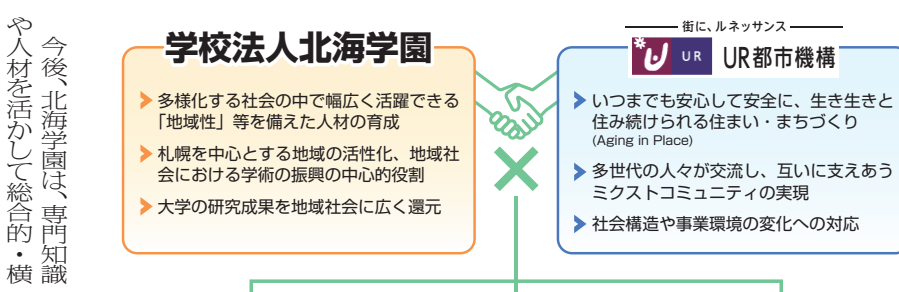
左から開発研究部長・榎見弘紀法学部教授、木村和範学長、学校法人北海学園・森本正夫理事長、UR都市機構東日本賃貸住宅本部長・岡雄一氏、同北海道エリア経営センター所長・久保木茂文氏、同総務部総務・法務チームリーダー・角五秀治氏

学校法人北海学園(北海学園大学・北海商科大学)と、UR都市機構と独立行政法人都市再生機構(東日本賃貸住宅本部)以下、UR都市機構は9月16日、連携と協力に関する協定を締結した。これは、UR賃貸住宅団地及びその周辺地域における少子化・高齢化など地域における諸課題に対応する取組みを協働して実施することにより、将来にわたり持続可能なコミュニティの形成や「地域の活性化」に貢献する人材育成などを目的としており、道内大学として初の連携協定となった。

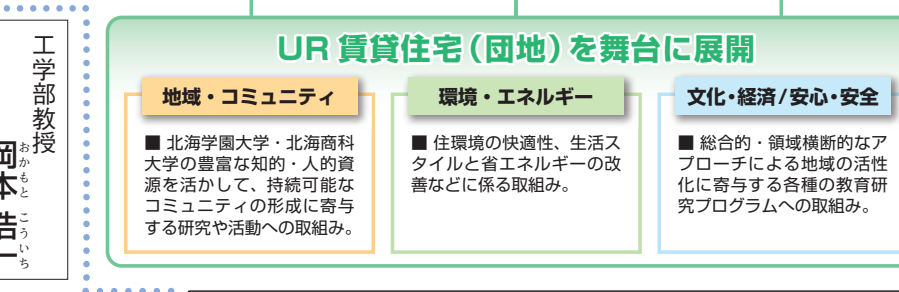
UR澄川団地の調査・研究開始

北海学園は、多様化する社会の中で幅広く活躍できる人材育成と地域社会の学術・文化・生活の振興の中心的役割を果たすことを目指す。連携・協働事項としては、①学生の教育活動に関する事項、②地域の文化・経済の振興に関する事項、③地域住民の安心・安全に関する事項、④地域住民の健康維持・増進に関する事項、⑤地域福祉の推進に関する事項、⑥地域情報の共有及び発信に関する事項、⑦地域拠点の活用に関する事項などがあげられている。具体的には、本学工学部建築学科の岡本一教授と石橋勇教授(石橋達男教授)による、UR澄川団地(札幌市南区)における住まい方調査及び住環境の改善検討がスタートした。

今後、北海学園は、専門知識や人材を活かして総合的・横断的に取り組み、UR都市機構は、大学(教員・学生)と団地にお住いの方々の橋渡しを行い、賃貸住宅、施設、集会所などの資産を有効活用することによって、団地における多世代間の交流を活かし、コミュニティ活動の充実などを図っていく。



工学部教授 岡本浩一(おかもと こういち)は、UR澄川団地は、新たな可能性が秘められていると考へ、近年、注目を集めています。道内初となる連携協定の締結を受け、UR都市機構(UR)との密な協力体制のもと、地域に貢献する様々な研究・実践活動が展開される。



北海学園大学
学報

北海学園大学学報
発行・編集 北海学園大学
札幌市豊平区旭町4丁目
1番40号 〒062-8605
電話 011(841)1161
FAX 011(824)3141
URL http://hgu.jp/
gakuho@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp
発行日 6月1日、9月1日、
12月1日、3月15日
購読料 1部80円 年間320円
制作・印刷 株式会社人力社

主な記事	
学長室から「2018年問題、恐れるに足らず」	2面
経済学部 水野谷武志教授「育児時間」再考	3面
第36回 開発特別講座	4面
「別海の四季」 河崎秋子	5面
日本語教育特別演習 韓国・大田大学校で実習	6面
建築学科 米田浩志研究室 コンペで連続 最優秀賞	7面
企業トップに聞く 社会に求められる人材とは?	8面

卒業証書・学位記授与

去る9月30日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、平成28年度9月期卒業証書・学位記授与式が行われ、一人に卒業証書・学位記が授与された。学部から71名(経済学部24名・経営学部12名・法学部22名・人文学部5名・工学部8名)の卒業生を送り出した。

はじめの一步

目標は、進捗状況や社会情勢の変化に応じ数年毎に見直し、URの今後の取組みに反映され実現する可能性もあります。始まったばかりですが、既に学生のやる気や取り組み姿勢には目をみはる様子が窺えます。同時に学生の懸命な取り組み姿勢は、居住者の方々やURの方々の居住環境を向上させる一助となるでしょう。

木村学長式辞(要旨)

卒業証書・学位記を手にして、本学を巣立つ皆さん、卒業おめでとうございます。この式典にお越しくださいました関係の皆様にも、心からの敬意を表します。本学は、1950(昭和25)年に創立された北海短期大学を母胎に、その後、2002年に北海道で初めての4年制私立大学として誕生しました。その後、本学は、改組転換を重ね、文系と理系の5学部のあることを誇りにして欲しいと願っています。URの全面的な協力と団地自治会のご理解のもと、学生は卒業研究の対象地として団地に訪れ、居住者の方々と顔を合わせ、若い力や発想を活かして研究に邁進しています。机上ではなく、現実と直接向き合う機会は大変貴重なものです。URの全面的な協力と団地自治会のご理解のもと、学生は卒業研究の対象地として団地に訪れ、居住者の方々と顔を合わせ、若い力や発想を活かして研究に邁進しています。机上ではなく、現実と直接向き合う機会は大変貴重なものです。

平成28年度9月期卒業生数		
学部	学 科	H28年度9月期
経済学部	1部 経済学科	9
	2部 地域経済学科	3
	2部 経済学科	9
経営学部	1部 経営学科	3
	2部 経営情報学科	4
	2部 経営学科	5
法学部	1部 法律学科	3
	2部 政治学科	2
	2部 政治学科	11
人文学部	1部 日本文化学科	1
	2部 英米文化学科	0
	2部 日本文化学科	3
工学部	1部 社会環境工学科	1
	2部 建築工学科	4
	2部 電子情報工学科	2
生命工学科	1部 生命工学科	0
	2部 生命工学科	0
	2部 生命工学科	33
1部 計		38
2部 計		71
計		71

(単位:人)

原発災害下での暮らしと仕事

生活・生業の取戻しの課題
協同組合研究誌に「編集者(企画)小山良太・田中夏子(監修)濱田 武士 経済学部教授・早稲田大学経済学部准教授 他共著」
定価(本体一、八〇〇円+税)

テキストブック現代財政学

植田和弘・諸富徹 野口剛 経済学部准教授・宮本史 経済学部准教授 他共著
定価(本体二、七〇〇円+税)

経済危機下の分権改革

山田 徹 編著 松尾 秀哉 法学部教授 他共著
定価(本体三、八〇〇円+税)

野党とは何かー組織改革と政権交代の比較政治

吉田 徹 編著 松尾 秀哉 法学部教授 他共著
定価(本体六、〇〇〇円+税)

ロードマップ法学

小川 富之 川村 隆子 藤野 泰津子 編 神元 隆賢 法学部教授 他共著
定価(本体二、五〇〇円+税)

麻雀の誕生

大谷 通順 人文学部教授 著
定価(本体二、二〇〇円+税)



私立大学への国庫補助金が減額の一途をたどり、今年度はついに経常経費の10%を割るに到りました。さらにまた、首都圏の大規模大学への学生集中を防ぐことを目的として、今年から入学定員の厳格管理が求められるようになりまし。この定員管理は全国一律に実施され、たとえば、本学のように収容定員(1年生から4年生までの学生数が4千人から8千人までの大学にたいしても、補助金不交付の定員超過倍率が年々、段階的に引き下げられ、最終的には、1・2倍になります。

補助金の減額と定員の厳格管理を前にして、関係機関は寄付金収入の増加策を講ずるよう、大学にたいする呼びかけを強化しています。本学同窓会には、それに先んじて教育振興にたいする深い理解のもとで、学業成績が特に優れた学生にたいする奨学金の給付事業を継続しています(本紙前号第1面)。誠に有難く、感謝の意を表するにふさわしい言葉を見つけることができません。

奨学金の給付に加え、今年からは旭川、帯広、函館の道内3会場を実施される保護者懇談会とミニオープンキャンパスにおいて、その地域で活躍している卒業生が、学生生活の思い出(学びと課外活動など)や社会人としてのアドバイスを話すために、お越しくださいました(第2面)。3会場の懇談会やミニオープンキャンパスの

経営学部教授
佐藤 大輔



トピックス43

先日、他大学の先生と話をしていたとき、教員には学生に対するある一つの見方が共有されていることに気づきました。それは、「学生は全然クリエイティブじゃない」こと。実際、大学の外で学生が発言したり発表をしたりすると、周りの大人達からは「学生らしい」「思い切った意見を期待します」などのように言われてしまします。ところが、当の学生達は一般的な「正解」を

参加者からは、本学における学びの意義を改めて理解できたという感想が寄せられました。卒業生によるこのような協力は、卒業生と父母の距離だけでなく、同窓会と大学の距離をいっそう縮めるものと期待されます。同窓会とのこのような関係が続く限り、18歳人口が減少し始めることによる私学の危機(2018年問題)は恐れるに足りません。

2018年問題、恐れるに足りず

以前より本学では、積極的に職員研修(SD)に取り組む、学内外における研修を通じて教員と事務職員の資質向上に努めてきました。大学(院)設置基準の一部変更(SDの義務化)に伴う規程整備も順調に進み、新年度からは、さらに充実した研修体制のもとで、本学は、社会的責務を果たすことになりまし。

【学長 木村和範】

クリエイティブとは？



仮説を構築するよう訓練されてきています。問題(問い)が提示され、その原因(仮説)を探索することで、解決策を生み出すことは慣れているわけですが、でも、そもそもその問題は彼ら学生達が気づいたものではないかもしれません。企業や地域などと連携して問題解決型のプロジェクトを行うと、はじめに先方から

でも、言葉で説明される課題が指し示す本当の問題は、当事者がどんな視点からそれを見ているのかを探らなければ分からないものです。学生達がオリジナルのアイデアを生み出しにくいのは、自分たちなりにそれがどういった問題なのかを再度設定し直すとうしないところ

平成28年度 保護者懇談会

保護者懇談会
担当学部長
草間 秀樹



平成28年度の「保護者懇談会」が、10月2日(日)の旭川会場を皮切りに、同月16日(日)に帯広会場、同月23日(日)に函館会場、そして、札幌会場については、同月29日(土)に山鼻校舎で、同月30日(日)に豊平校舎で、それぞれ実施されました。各会場における参加者は、旭川会場では25組32名、帯広会場では44組56名、函館会場では18組25名、札幌会場(山鼻)では77組107名、札幌会場(豊平)では23組339名と、非常に多くの保護者の方にご参加いただき、教職員一同、感謝



(写真上)旭川会場の個別面談、(中)帯広会場の全体説明会、(下)函館会場での木村学長挨拶

保護者との連携さらに強化
や、本学の支援体制について説明を行いました。そして、「就活スタートに向けて」と題して、企業から求められてる人材・子供との関わり方・保護者へお願いについて話



札幌会場の就職活動支援勉強会

引き続き、個別相談会を実施しました。その際、成績に関する相談や卒業生に必要な単位取得に関する説明などについては、学生が所属する各学部の教職員が対応し、学生生活や奨学金などに関する相談については、学生生活の職員が対応し、就職活動に関する相談については、キャリア支援センターの職員が対応させて頂きました。特に地方会場では、ゼミ担当教員からのメッセージを通して、一人暮らしをしている学生の状況を報告させて頂き、したが、それにより学生の成長ぶりを実感された方も少なくなかったように思われます。

保護者懇談会の前日には、同会場で受験生を対象とした「ミニオープンキャンパス」を開催し、会場は活気に溢れた。全体説明や学部相談会、推薦入試対策講座のほか、今年度からの新企画として「学部長入門ゼミナール」と、「OBからのメッセージ」と題した講演会を開催し、貴重なお話しに参加者は熱心に聞き入っていた。

▼函館会場・平成10年度経済学部経営学科卒・齋藤浩徳氏(函館信用)



金庫本店主任・渉外担当)



▼帯広会場・昭和60年度経済学部経営学科卒・駒澤信一氏(帯広信用)



▼旭川会場・平成3年度法学部法律学科卒・南保宏樹氏(市立旭川病院)

ミニオープンキャンパス同時開催

保護者懇談会の前日には、同会場で受験生を対象とした「ミニオープンキャンパス」を開催し、会場は活気に溢れた。全体説明や学部相談会、推薦入試対策講座のほか、今年度からの新企画として「学部長入門ゼミナール」と、「OBからのメッセージ」と題した講演会を開催し、貴重なお話しに参加者は熱心に聞き入っていた。

工学部准教授
山本 裕子



食の安全・安心に関しては、有害物質のわずかな存在をも許さないゼロリスクを叫ぶ風潮があるように最近は見受けられるが、現実問題としてゼロリスクは不可能であり、私たちはリスクとその削減にかける費用を天秤にかけ、受け入れ可能と判断されるリスクは受け入れていく必要がある。

未来展望

豊洲市場の地下水質

2016年8月以来、東京都の豊洲市場に関する様々な問題が報道されている。9月13日、15日にかけて東京都が地下の空洞部分(地下ピット部)に溜まった水の品質分析を行った結果、ヒ素、六価クロム、鉛、ベンゼンといった有害物質が検

出された。いずれも環境基準値以下であったが、都の調査以前の政庁などの独自調査も含め、水質分析結果を伝えた報道の多くが、危険性を過度に強調しているように感じられた。世間一般には基準値を超

都が行った豊洲市場敷地内の8回目の地下水モニタリング調査結果によると、201あるモニタリング地点のうち3地点でベンゼンとヒ素の濃度が土壌汚染対策法における地下水基準値を初めて超えた。土壌汚染の有無を判断する地下水モニタリング調査において、基準値を常にあるいは大幅に超過する場合には何らかの対策が必要となるであろうが、基準値以下に管理できる場合には、リスクは許容されるレベルであることを皆が理解し、風評被害が起らないようにすることが必要ではないだろうか。

【専門:水環境工学 環境リスク工学】

平成28年度 浅羽祭挙行

学校法人北海学園主催による平成28年度浅羽祭が10月22日、本学4号館10階第3会議室において厳粛に執り行われた。



出席したご遺族および関係者

浅羽祭は、北海学園創立功労者である浅羽靖先生(1854~1914)のご命日に、浅羽先生をはじめ物故された歴代の理事長、学長、校長、さらに、この1年間に逝去された教職員及び学生・生徒のご冥福をお祈りする慰霊祭である。

第36回 開発特別講座

本学開発研究所は10月12日、19日、24日の3回にわたり、中頓別町役場で第36回開発特別講座を開催した。共通テーマは「分かち合い支え合いの地域づくり」。講師の先生方から講演内容伺った。

中頓別町の
地域振興を考える

経済学部教授 小坂 直人

中頓別町での開発特別講座では「地方創生とは何かー人口減少社会の活路ー」と題して講演した。主たる内容は以下のとおりである。

2020年には東京オリンピックが開催される。これに向けて、東京では膨大な公共事業が始まり、ただでさえ東京に集中しているお金と人が、益々大量に流れ込んでいる。他方、北海道では多くの地域で人口減少が急速に進み、いわゆる「増田レポート」の消滅自治体「が現実のものになる心配が濃厚である。私たちにこの流れは避けられない

人づくり、住民の共助

経済学部教授 内田 和浩

中頓別町は、前任校のある旭川市にいた2000年10



経済学部・内田和浩教授

イザイとして関わってきており、約10年ぶりの本格的な訪問だった。

講義では、当時の計画は「一流の中頓別(いなか)づくり」を掲げて「私ができること」「私たちができること」「行政や関係機関が行うこと」等を整理し、「人育ち」を重視したまちづくりが目指

地域包括ケアと
まちづくり

法学部教授 横山 純一

「地域包括ケアシステムとまちづくり」という表題で講演した。地域包括ケアシステムとは、高齢者が重度な要介護状態になっても、できる限り自宅や地域で過ごせるように、医療、介護、予防、生活支援などのサービスが一体的に提供されるシステム

「地域包括ケアシステムとまちづくり」という表題で講演した。地域包括ケアシステムとは、高齢者が重度な要介護状態になっても、できる限り自宅や地域で過ごせるように、医療、介護、予防、生活支援などのサービスが一体的に提供されるシステム

経済学部 濱田武士教授・早尻正宏准教授
日本協同組合学会賞学術賞

本年4月に着任した経済学部地域経済学科の濱田教授(地域経済論)と早尻准教授(開発政策論)が、福島大学経済経営学類の小山良太教授とともに、共著書「福島に農林漁業をとり戻す」(みすず書房、2015年)により、日本協同組合学会賞学術賞(共同研究)を受賞しました。



経済学部・濱田武士教授(右)と早尻正宏准教授



『福島に農林漁業をとり戻す』(みすず書房、2015年)

同学会は協同組合運動のあり方を学際的に研究することを目的に1981年4月に設立された日本学術会議協力学術研究団体で、現在の会員数は約700人、賛助会員数は46団体です。

同賞は、①学術的な水準を満たしていること、②協同組合の発展に寄与すること、③著書の目的とする課題の解明が社会にインパクトを与えること、④会員の研究活動の活性化に寄与すること、⑤という基準を満たした会員による特に顕著な研究業績に授与されます。

「福島に農林漁業をとり戻す」は、農・林・漁業の経済学を専門とする気鋭の研究者三人が、2011年3月に発生した東日本大震災にともなう原発事故後の福島県における生業再建と地域再生の取り組みの実態を丹念なフィールド調査から明らかにしたものです。復旧・復興政策の課題や協同組合の役割を実践と理論の両面から描き出した意欲的な業績であり、協同組合研究の目指すべき報告を示唆するものであるとともに、その発展に寄与するものと高く評価され、このたびの受賞に至りました。

授賞式は10月8日(土)に北海道大学で開催された同学会第36回大会総会で行われました。

市民公開講座
「コミュニティ・カフェのABC」

2016年度市民公開講座「コミュニティ・カフェのABC」ソーシャル・ビジネスの最新線を探る「応用編」(実践編)が11月5日、D31番教室で行われた。

これは7月2日に実施した基礎編(理論編)

(学報107号4頁掲載)に続くもの。

人と人、人と地域の連携が大切

前半は2人のコメントーターが、自身の運営するコミュニティ・カフェを紹介した。

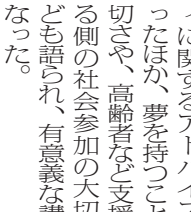


コメントーター 宮澤洋子氏



コメントーター 土橋絃子氏

後半は、4人の受講者が質問を発表した。気軽に集まって茶話会ができるカフェ、本質を出し出すなど本を通して人と人をつなぐカフェ、マンションに居住する高齢者を対象としたカフェ、リサイクルコーナーや家庭菜園の野菜販売コーナーを併設したカフェと、どれも人と人のつながりを大切にした魅力的な内容だった。



上浦正樹教授による特別講演

「福島に農林漁業をとり戻す」は、農・林・漁業の経済学を専門とする気鋭の研究者三人が、2011年3月に発生した東日本大震災にともなう原発事故後の福島県における生業再建と地域再生の取り組みの実態を丹念なフィールド調査から明らかにしたものです。復旧・復興政策の課題や協同組合の役割を実践と理論の両面から描き出した意欲的な業績であり、協同組合研究の目指すべき報告を示唆するものであるとともに、その発展に寄与するものと高く評価され、このたびの受賞に至りました。

電気・情報関係学会

北海道支部連合大会

表を行った。また、本大会では様々なイベントも開催された。特別講演では大学院工学研究科長上浦正樹教授による「北海道におけるJRの鉄道事情」と題した講演が行われ、多くの聴講者の関心を集めた。また、学生交流会では生命工学科4年生で私の卒業生奥田由佳さんが本学及び自身の卒業研究を紹介した。さらに、初日の懇親会では本学を代表して工学部長長柄祥吾教授より歓迎の挨拶が述べられた。



上浦正樹教授による特別講演

306名が参加した本大会は本学の教職員及びアルバイト学生の協力のもとに成功裡に終えることができた。本大会の詳細は以下のURLから参照できる。

<http://www.jice.org/hokkaido/shbuka2016/>

(工学部生命工学科教授 越前谷博)

人文学の挑戦

第11回人文学の挑戦が10月23日、紀伊國屋書店札幌本店で行われた。講師は本学人文学部・テレングト・アイトル教授。今



人文学部・テレングト・アイトル教授(左)と柴田崇教授

詩的狂気の想像力と海の系譜

力と理性・現実(ミメシス・模倣)という相反する二つの思考様式を説明し、「文学作品において詩的狂気の想像力は、ほとんど回避され疎遠にされてきた」と話した。

そして、憧憬、郷愁、願望、夢などを表象してきた「海」の文学と「詩的狂気の想像力」の絡み合いを、古代ギリシャから英仏独、明治日本の森鴎外や坪内逍遙、夏目漱石、さらに中国、モンゴルまで、どのように受容され変容してきたかを解説した。

アイトル教授は「詩的狂気の想像力と海の文学は教育的な意味だけでなく、心を深め、視野を広め、人々の内面世界を崇高にして、勇気づけ、穏やかにする役目を果たしてくれるものだ」と話した。

を考慮しながら情報を引き出すことに努め、「学んできたことが自然と実践できた。昨年よりも成長できた」と手応えを語った。

第2部「グローバル社会の中の自分の居場所の見つけ方」(講師:高柳未来氏(株式会社DMC))



高柳未来氏

JR新千歳空港外国人インフォメーションデスクや総合商社での貿易業務、広告代理店を経て、現在はインバウンド客の誘致やグローバル人材育成に携わっている高柳氏は「グローバル化の速度が速くなっている」と指摘。小さな積み重ねが自分と日本の未来をつくる。学生時代にいろいろな経験を」と



湊和生氏

北海道大学を卒業し日本航空に入社した湊氏は、国内外で様々な業務にあたり、退職後はキャリアコンサルタントとして新しい道へ。現在はJICA北海道国際センター進路相談カウンセラーとしても活躍。転校続きの子ども時代から現在までを振り返り、「人は毎日変化している。自分に枠をはめるな。何か一つのことを打ち込め」と学生に力強く語りかけた。

別海の四季

3

河崎 秋子

冬



冬も仕事 黙々と仕事(提供:筆者)

道央や道南にお住まいの方には笑われるかもしれないが、道東太平洋側出身の私は豊平に暮らしていた大学生の冬、毎日降り続く雪に驚いていた。朝からこんな昼でも止まず、夜中なお降り積もる。なんとということだ、雪が止んだらベランダの雪かきをして、地下鉄駅から遠い本屋まで足を伸ばそうと思っていたのに、一向に晴れてくれない。週間天気予報を見てもずっと雪だるまが並んでいるし、札幌の空ってのはいつになつたら晴れてくれるんだろ。う。しょっちゅうそう思っていた。

今思えば、雪の日が多い札幌の冬が懐かしきものもある。毎日しんしんと降り積もる雪を窓の外に見ながらもっと読書をしていたら、もっと映画を観ていれば、と悔やんでばかりだ。(いや、実は天気にかかわらず、自由になる時間が今の何倍もあった学生時代に比べて勉強しておけばよかったと、しょっちゅう残念に思っているのだが。)

私が育った根室地方も、高校時代を過ごした帯広も、どちらも区分としては太平洋側で、冬は雪が少ない。いや、雪自体はトータルで結構な量にはなるので、正確に言えば済ませる。外出できないのと日中でも暗いので普段の疲れが眠気となって噴き出てきて、吹雪の日には寝て「明日」とうそ書いては仮眠に勤しむ農家も多い。

さて吹雪が明けると、敷地内道路や畜舎周りの雪かきなど、やるべき仕事は山盛りだ。いっそ牛や羊もクマやシマリスのように冬眠させて、自分も同じように冬眠してしまいたい。幾度そう思っては案外忙しい冬を過ごしてきただろう。そして叶わないこと知りながら、私はこれからも冬ごとに同じことを思うのだ。

【経済学部平成13年度卒・49期生】

北海学園大学OB
市町村長が語る!!

別海町長 曾根 興三
工学部土木工学科(現 社会環境工学科)
(昭和49年度卒・4期生)

町の自慢といえ、牛の数が十萬頭いること、牛乳生産量が年間四十六万トンあること、農地面積が八万ヘクタールあることなどでしょうが、これらはいずれも日本一です。

私は昭和二十六年に別海町で生まれ、昭和五十年に北海学園大学工学部土木工学科を卒業して、別海町役場に就職しました。実家は酪農家で、昭和三十年代は道路が整備されていなかったために父母が大変苦労しており、そのことが私を土

別海町は、道東根室振興局内に位置し、人口一万五千人の一次産業を中心とした町です。

危険と隣り合わせの火災現場では、人命を守り、被害を最小限に抑えることが任務。責任は非常に重いと感じます。救急隊にいた時のこと

小野寺 今年10月に現部署へ異動になり、水槽隊の隊員として火災現場での人命救助と消防活動、交通事故現場での救助活動、小学校や諸施設での避難訓練など火災予防活動を行っています。また、洪水や地震など大きな災害現場への派遣もあります。現部署の前は5年間、救急車に乗って救急活動に当たっていました。

ですが、急病人を病院に搬送し、医師に引き渡した数日後、その方からお礼の手紙が届いたことがあり、モチベーションが上がりました。この仕事をやっていて良かったと思う瞬間です。

一日心にかけていることは？
小野寺 採用されて最初の約半年間は消防学校に入っただけですが、厳しく言われたので、ここで厳しく言わ

木の道へ進めた一番の要因でした。

大学では、一年は豊平校舎で、二年生以降は山鼻校舎での勉強でしたが、学校へ行くよりも隣の雀荘へ通う日のほうがはるかに多かったような気がします。

就職以来役場では、一貫して農業基盤整備を中心とした建設経済畑を担当してきました。

平成十九年町長選挙に出馬しましたが、見事に落選。その後平成二十七年の選挙に再出馬しましたがまたしても落選し、このまま夢は実現しないのかと思ふ時期もありましたが、平成二十八年五月に現職町長が急逝され、同年六月に行わ

若いうちは目標を持つこと、年を重ねるに従い一歩一歩前へ進むこと、そしてあきらめないことが、悔いのない人生を送るための必要条件であると思っています。

七月に、私が町長に就任したので道内の北海学園大学出身の先輩首長さん方がお祝いをしてくれました。

現在道内には、北広島市長をはじめ十一名の方が活躍されております。皆さんの目標達成の一助になってくれるかもしれません。

北海学園大学同窓生の連携を深め、北海道発展のためにみんなが力と知恵を出し合い、「北海学園大学ここにあり」と胸を張れるようになことを祈念しています。



学園かえるカフェ。左から法学部・樽見弘紀教授、人文学部・田中綾教授、人文学部・井野葉子教授、経営学部・田村卓哉教授



産直野菜・果物即売会「北海マルシェ」

第9回ホームカミングデーが10月8日、豊平キャンパスで開催された。

第4回学園かえるカフェ「就活にも終活にも効く恋文の綴り方教室」の1講目は、「文豪・歌人たちの恋文」と題した人文学部・田中綾教授の講演。歌人でもある田中教授は「終活」には直接的な文章より、メッセージを託すことができて短歌が合うと、その技法を説明した後、様々な書籍から谷崎潤一郎や斎藤茂吉、三浦綾子らの恋文を紹介した。2講目は、源氏物語の「恋文」と題し、人文学部・井野葉子教授が講演。平安時代の貴族の恋文の形式を解説し、源氏物語の野分巻の一

部分を読み解いた。講演後はキャリア支援センター長の経営学部・田村卓哉教授と法学部・樽見弘紀教授(進行)が加わり、恋文や終活のために綴ること、また綴ることが少なくなった今の学生とその就職活動などにも照らし合わせて語り合った。田村教授はコミュニケーションの観点から「想いとそれを伝える技術の両方が必要だと改めて感じた」と話した。

また、毎年好評の産直野菜・果物即売会「北海マルシェ」や「無料カイト施術」写真部OB会主催の「写真展」、大学生協食堂で学食d「ランチ」も催され、友との再会を楽しんでいた。

大好きな街を守るために

小野寺 現在の仕事は4人一組で任務に当たり、いつも一緒に行動します。この仕事はチームワークが非常に重要で、部活で培われた結束力、連帯感が今に活かれています。

休日の過ごし方は？
小野寺 今年からボクシングジムに通っています。最初はダイエット目的でしたが体力づくりにもなり、汗を流すとリフレッシュできます。

小野寺 父は、部活中心の学生生活で、アメフトの練習は週5回。私は、ボールを持っていない選手にタックルするディフェンスで、これが楽しかった。部員全員が初心者からのスタートなんです。アメフトはいろいろなポジション(役割)があります。私は高校までサッカーをやっていたが、野球、バスケット、柔道などそれぞれの特徴が活か



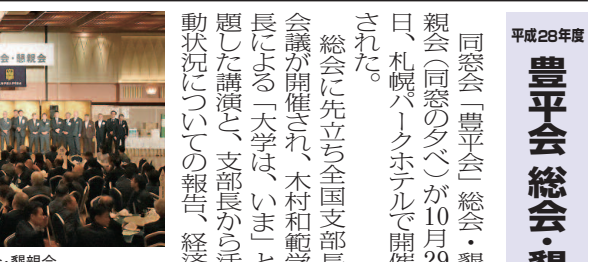
約800人もの同窓生が集まった豊平会 総会・懇親会

小野寺 生まれも育ちも札幌で「この街が好き」、そして「人の役に立つ仕事をしたかった」。大好きな街を守りたい」という気持ちからです。

「仕事の内容とやり甲斐などを教えてください。」
小野寺 今年10月に現部署へ異動になり、水槽隊の隊員として火災現場での人命救助と消防活動、交通事故現場での救助活動、小学校や諸施設での避難訓練など火災予防活動を行っています。また、洪水や地震など大きな災害現場への派遣もあります。現部署の前は5年間、救急車に乗って救急活動に当たっていました。

危険と隣り合わせの火災現場では、人命を守り、被害を最小限に抑えることが任務。責任は非常に重いと感じます。救急隊にいた時のこと

小野寺 アメリカーナフットボール部と体育会本部に所属し、部活中心の学生生活で、アメフトの練習は週5回。私は、ボールを持っていない選手にタックルするディフェンスで、これが楽しかった。部員全員が初心者からのスタートなんです。アメフトはいろいろなポジション(役割)があります。私は高校までサッカーをやっていたが、野球、バスケット、柔道などそれぞれの特徴が活か



同窓会「豊平会 総会・懇親会(同窓の夕べ)」が10月29日、札幌パークホテルで開催された。

同窓会「豊平会 総会・懇親会(同窓の夕べ)」が10月29日、札幌パークホテルで開催された。

総会に先立ち全国支部長会議が開催され、木村和範学長による「大学は、いま」と題した講演と、支部長から活動状況についての報告、経済学部・小坂直人教授による出前講義「電力会社を選ぶ時代」が行われた。

懇親会場には約800名の同窓生が集結。森本正夫会長の挨拶に続き、木村学長から祝辞が述べられた。

懇親会ではジャズ研究会や北海道で音楽活動をしているアーティストIaurenによる演奏、毎年恒例の豪華景品が当たる学園グレイトビンゴが行われた。

恩師や懐かしい友と再会し、近況報告や思い出話で大いに盛り上がり、最後は全学応援団指導部のエールと学生歌斉唱、名塩良一朗副会長の三本締めで閉会となった。今年も盛大な同窓の夕べとなった。

人文学部新カリキュラム 日本語教育特別演習
韓国・大田大学校で実習

人文学部教授

中川 かず子

人文学部の新カリ専門科目「日本語教育特別演習」は、海外の教育現場で実習を行い、実践能力の向上と海外の学習者との交流を目的として開講された。開講に至るまで多くの方々

の計画を実現できたことは感慨深い。

今回、韓国・大田大学校で7名の実習生が10月24日(月)から11月5日(土)までの2週間、実習と学生交流を体験することができた。

初めての海外研修を経験する学生も多い中、早朝の出発便が大幅に遅れ、初日から

3年計画が実現

この日から11月3日まで、授業見学、学習者との交流会のほか、一人2クラス(初級と上級、計14クラスを実習授業として担当させてい

た。授業見学、学習者との交流会のほかに、一人2クラス(初級と上級、計14クラスを実習授業として担当させてい



韓定食を前に

実践で教えることの難しさ

人文学部日本文化学科3年

志村 瑞美

私は日本語教育の実習を行うために、北海学園大学と提携校である韓国の大田大学校に2週間教育実習旅行へ行きました。



見学した大田大学校の日本語授業の様子

第1週目は大田大学の日本語受講者の学生たちの授業見学を行い、学生たちと交流を深めました。2週目は実際に1コマ50分の時間をい

この実習旅行は私にとっても忘れられないものとなりました。来年もこの実習に参加したいと思う学園生がいまさら、ぜひ参加してみたいと思います。

大学生観光まちづくりコンテスト2016
本学チーム 青森ステージで県知事賞

大学生が観光まちづくりプランを競い合う「観光まちづくりコンテスト2016青森ステージ」が9月6日、青森市で開催され、本学チーム「Hokkai Geographical Unit」が県知事賞を受賞した。



前列左・中戸浩起(経営学部2年)、後列左から本間隆斗(経済学部1年)、中村凌大(同1年)、佐藤実和子(人文学部2年)、人文学部・村中亮夫准教授

富裕層をターゲットに、青森県の今別町と佐井村、北海道内町の3町村を公共交通機関を使

と、元気に活動している



知内町・知内ブルー



今別町・高野崎



佐井村・仏ヶ浦の船着き場

地域のために!! 青函3町村を現地調査

幹線を契機に青函間の交流拡大と、地域資源の消費拡大を目的とした。

メンバーは全員、本学サークル、マチュア部。それぞれの個性や適性を活かして作業を分担し、7月上旬に2泊3日で知内町へ、8月に6泊7日で今別町と佐井村へ行

き現地調査を行った。青森県関係者からは「3町村それぞれの観光を掘り下げたところ、いい架け橋になる」と評価された。

▼学生コメント

中村「実際に現地に行ってみると、想像していたよりも大変な作業でした。でも、地元の人たちと交流できたことが、とても貴重な経験でした。」

中村「実際に現地に行ってみると、想像していたよりも大変な作業でした。でも、地元の人たちと交流できたことが、とても貴重な経験でした。」

▼村中亮夫准教授のコメント

「あくまで学生の主体性を尊重しながら、参考資料等を通して理論と事例研究を指導した。学生たちは、初めてのフィールドワークで多くのことを学んだ。成長を間近に見られて嬉しく思う。」

国際交流プログラム

海外研修で異文化体験

8月から9月にかけて、海外研修が実施された。引率職員は報告と学生3名の体験記を紹介する。

今年8月8日から9月1日まで、北海学園大学と北海道大学との学生15名による海外研修の引率者として、カナダはアルバータ州レスブリッジにあるレスブリッジ大学に行ってきました。引率者は他に人文学部のジェレミー・ブシャー先生です。

交流協定校
カナダ・レスブリッジ大学

レスブリッジは日本から8000km以上も離れた場所にある緑豊かな小都市で

に刺激し合える様々な国の同志に出会え、3週間とは思えないくらい仲良くなる

ことができました。カナダでは毎日頭をフル回転させ、周りの声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

の声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

の声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

の声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

の声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

の声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

の声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

の声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

の声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

の声に耳をすませ、クラスメイトと時間を惜しむくらい

スプリング市長やレスブリッジ大学学長との食事会、カルガリーにあるカナダ・オリンピック・パークでのリユニオン体験、ウォータートン国立公園のベアーズ・ハンプから眺めた雄大なカナディアン・ロッキーの景観、バンフ国立公園のルイス湖・モレーン湖で目にした神秘的な水の色など、学生たちは数えきれないほど貴重な体験をし、忘れ難い光景を目にしました。

約3週間の短い研修ではありましたが、現地の方々と交流する中で、多くの学生たちが積極的に意思疎通を図るようになったと感じました。今回の研修を通して得たものが、彼らの今後に大いに役立つことを願ってやみません。

今回のカナダ・レスブリッジ大学学生交換事業夏期海外研修では、ホームステイをしながら現地のレスブリッジ大学に通って、午前中は講

義を受け、午後は課外活動と言ったカリキュラムだった。講義は、英文法を英語で学ぶという内容だった。内容自体は、日本でも学んだことがあったので多少余裕を持って臨めた。しかし、疑問点などを伝える際、自分で整理して伝えることが全く上手くいかず、まとめる・話す力の重要さと難しさを学んだ。

午後の課外活動は、市長との会食・博物館・ロッククライミング・トレッキングなど本当にたくさんの方々と経験をすることができた。

この研修では現地の人達とたくさん関わることができた。言葉の伝わらないものどかしさを感じることもあったが、互いが歩み寄って仲良くなろうとする心が一番大切なんだと感じ、いろんな面で自分が成長し視野も広がった貴重な研修となった。



レスブリッジ大学キャンパスにて

交流協定校
カナダ・レスブリッジ大学

歩み寄る心が一番大事

経済学部1年 佐々木 将人

今回のカナダ・レスブリッジ大学学生交換事業夏期海外研修では、ホームステイをしながら現地のレスブリッジ大学に通って、午前中は講

義を受け、午後は課外活動と言ったカリキュラムだった。講義は、英文法を英語で学ぶという内容だった。内容自体は、日本でも学んだことがあったので多少余裕を持って臨めた。しかし、疑問点などを伝える際、自分で整理して伝えることが全く上手くいかず、まとめる・話す力の重要さと難しさを学んだ。

午後の課外活動は、市長との会食・博物館・ロッククライミング・トレッキングなど本当にたくさんの方々と経験をすることができた。

この研修では現地の人達とたくさん関わることができた。言葉の伝わらないものどかしさを感じることもあったが、互いが歩み寄って仲良くなろうとする心が一番大切なんだと感じ、いろんな面で自分が成長し視野も広がった貴重な研修となった。

今回のカナダ・レスブリッジ大学学生交換事業夏期海外研修では、ホームステイをしながら現地のレスブリッジ大学に通って、午前中は講

義を受け、午後は課外活動と言ったカリキュラムだった。講義は、英文法を英語で学ぶという内容だった。内容自体は、日本でも学んだことがあったので多少余裕を持って臨めた。しかし、疑問点などを伝える際、自分で整理して伝えることが全く上手くいかず、まとめる・話す力の重要さと難しさを学んだ。

午後の課外活動は、市長との会食・博物館・ロッククライミング・トレッキングなど本当にたくさんの方々と経験をすることができた。

この研修では現地の人達とたくさん関わることができた。言葉の伝わらないものどかしさを感じることもあったが、互いが歩み寄って仲良くなろうとする心が一番大切なんだと感じ、いろんな面で自分が成長し視野も広がった貴重な研修となった。

今回のカナダ・レスブリッジ大学学生交換事業夏期海外研修では、ホームステイをしながら現地のレスブリッジ大学に通って、午前中は講

義を受け、午後は課外活動と言ったカリキュラムだった。講義は、英文法を英語で学ぶという内容だった。内容自体は、日本でも学んだことがあったので多少余裕を持って臨めた。しかし、疑問点などを伝える際、自分で整理して伝えることが全く上手くいかず、まとめる・話す力の重要さと難しさを学んだ。

午後の課外活動は、市長との会食・博物館・ロッククライミング・トレッキングなど本当にたくさんの方々と経験をすることができた。

この研修では現地の人達とたくさん関わることができた。言葉の伝わらないものどかしさを感じることもあったが、互いが歩み寄って仲良くなろうとする心が一番大切なんだと感じ、いろんな面で自分が成長し視野も広がった貴重な研修となった。

今回のカナダ・レスブリッジ大学学生交換事業夏期海外研修では、ホームステイをしながら現地のレスブリッジ大学に通って、午前中は講

義を受け、午後は課外活動と言ったカリキュラムだった。講義は、英文法を英語で学ぶという内容だった。内容自体は、日本でも学んだことがあったので多少余裕を持って臨めた。しかし、疑問点などを伝える際、自分で整理して伝えることが全く上手くいかず、まとめる・話す力の重要さと難しさを学んだ。

午後の課外活動は、市長との会食・博物館・ロッククライミング・トレッキングなど本当にたくさんの方々と経験をすることができた。

この研修では現地の人達とたくさん関わることができた。言葉の伝わらないものどかしさを感じることもあったが、互いが歩み寄って仲良くなろうとする心が一番大切なんだと感じ、いろんな面で自分が成長し視野も広がった貴重な研修となった。



北海道博物館にて

留学生交流会

学生生活の充実と相互理解を深めるための留学生会主催・留学生交流会が11月13日に行われた。

参加人数は、留学生5名、一般学生16名、教職員3名。ペイントボールフィールド

パースト札幌で新しいスポーツに挑戦して大いに盛り上がり、昼食は羊ヶ丘展望ピ

ール園で、午後は北海道博物館で北海道とアイヌ文化の歴史に触れた。

学生生活の充実と相互理解を深めるための留学生会主催・留学生交流会が11月13日に行われた。

参加人数は、留学生5名、一般学生16名、教職員3名。ペイントボールフィールド

パースト札幌で新しいスポーツに挑戦して大いに盛り上がり、昼食は羊ヶ丘展望ピ

ール園で、午後は北海道博物館で北海道とアイヌ文化の歴史に触れた。

建築学科 米田浩志研究室 コンペで連続 最優秀賞

これまでに道内外の建築設計コンペでさまざまな実績を残してきた工学部建築学科・米田浩志研究室の学生らが、今年も2つのコンペで最優秀賞を受賞するなど、快進撃を続けている。

6月に行われた第7回JIAテスクチャレンジ設計コンペでは、河中宗一郎さん(大学院1年)、山崎貴生(大学院修了)



左から板東千尋(工学部2年)、河中 宗一郎(大学院1年)、山崎貴生(大学院修了)

1969年に第1回目を開催し国内においても長い歴史を有するキタスマコンペでは、昨年の第40回で高橋慶多さん(2013年度同大学院修了)が、一昨年の第39回で山崎貴生さんが最優秀賞を受賞。同じ所属(大学)からの3年連続最優秀賞受賞は高く評価されている。

米田浩志教授のコメント

「本人の努力はもちろんだが、研究室には、先輩とのつながりから知識や技術を身につけていく環境がある。受賞は、道内トップレベルを証明するものと自負している」

▼工学研究科修士課程1年・河中 宗一郎さんのコメント

「今年の受賞は、学部からの技術的な蓄積と、大学院で学んだ新しい視点が大きかったと思う。もともと、表現することが好きで、やればよかった分だけ返ってくる。もっとつくりたい」という気持ちでがんばっている」

冬季オリンピック・パリンピック学生ワークショップ

「オリパラボ」市民賞

札幌市主催の冬季オリンピック・パリンピック学生ワークショップ「オリパラボ」の発表会が10月20日、札幌駅前通地下歩行空間で行われ、米田研究室の学生作品が、市民から最も支持された提案として、事実上の最高賞となる「市民賞」を受賞した。この企画は、2026年冬季オリンピック・パリンピックを



▲第41回「北の住まい」住宅設計コンペ: (上) 最優秀賞 山崎貴生「1つ内のヘヤ 7つ外のヘヤ、(左下) 優秀賞 河中宗一郎「空の柱梁」、(右下) 奨励賞 河中宗一郎・板東千尋 共同制作「寄り添う大地」



▼第7回JIAテスクチャレンジ設計コンペ 最優秀賞 河中 宗一郎「とびらぐるまの家」

工学部建築学科 米田研究室学生 主なコンペ受賞歴(3年間分)

- 2016年
- 第7回JIAテスクチャレンジ設計コンペ 最優秀賞 河中宗一郎(大学院1年)
 - 第41回「北の住まい」住宅設計コンペ 最優秀賞 山崎貴生(2015年度大学院修了、ナカヤマアーキテツ勤務)
 - 優秀賞 河中宗一郎
 - 奨励賞 河中 宗一郎・板東千尋(学部2年) 共同作品

以下、河中宗一郎 2015年度卒業設計「湖水の景」の2016年受賞実績

- ◆2015年度本学建築学科卒業設計 最優秀作品
- ◆2015年度日本建築学会北海道支部卒業設計優秀作品 金賞
- ◆日本建築家協会北海道支部 学生卒業設計コンクール2016 銀賞
- ◆北海道卒業設計合同調評会2016 審査委員賞
- ◆せんだいデザインリーグ2016 50選(44位)

- 2015年
- 第6回JIAテスクチャレンジ設計コンペ 優秀賞 山崎貴生(大学院2年)
 - 第40回「北の住まい」住宅設計コンペ 最優秀賞 高橋慶多(2013年度大学院修了、堀尾浩建築設計事務所勤務)
 - 奨励賞×2作品 山崎貴生

- 2014年
- 第39回「北の住まい」住宅設計コンペ 最優秀賞 山崎貴生(大学院1年)
 - 優秀賞 河中 宗一郎(学部3年)
 - 奨励賞 山崎貴生(大学院1年)

※学年は受賞時



左から高西一矢(法学部4年)と若杉圭樹(経済学部3年)

法学部4年 高西一矢
経済学部3年 若杉圭樹

本学柔道部の高西一矢さん(法学部政治学科4年)と若杉圭樹さん(経済学部地域経済学科3年)が、平成28年度南幌町教育文化奨励賞を受賞した。

南幌町文化奨励賞

毎年、教育文化活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰しており、南幌町出身の二人はこれらの成績が評価されての受賞。表彰式は11月3日、南幌町農村環境改善センターで行われた。

南幌の少年団で中学1年から柔道を始めた二人。高西さんは「南幌の」先輩たちも受賞していて、少し近づけることができた、若杉さんは「ずっと強くなりたい」と思って練習してきた。大学で初めて全国大会に出ることができて、今回の受賞。続けてきて良かった」と喜びを語った。

高西さんは今年、札幌市消防の採用試験に合格した。勉強と部活の両立は辛かったが、両方頑張った甲斐があったと振り返った。



オリパラボの受賞作品を秋元克広札幌市長(右)に解説する本学学生

局 部 キャリア支援センター 紹介

キャリア支援センターでは、学生の就職指導や斡旋、求人に関する事項など、学生の就職に関する様々な業務を遂行している。



キャリア支援センター内

業志望と公務員志望に分け、民間企業志望者には全6回の就職ガイダンス、エントリーシートの作成や面接対策などのセミナー、個人面談などを実施している。公務員志望者向けには、2年次10月から4年次の公務員試験直前まで長期にわたり公務員講座を開講。民間と同様に、公務員ガイダンスやセミナーなども行っている。

働き続けられる職場を学生と模索

就職に関する指導で一番力を入れているのは何か。三浦裕幸係長は「本人が満足し、納得して働き続けられるところを一緒に見つけていく」と話している。

就職に関する指導で一番力を入れているのは何か。三浦裕幸係長は「本人が満足し、納得して働き続けられるところを一緒に見つけていく」と話している。

就職に関する指導で一番力を入れているのは何か。三浦裕幸係長は「本人が満足し、納得して働き続けられるところを一緒に見つけていく」と話している。

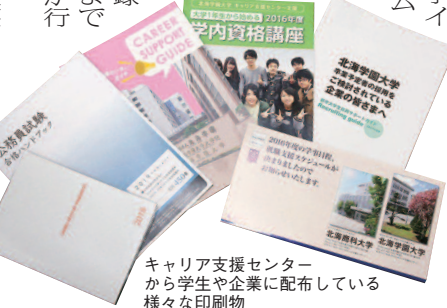


個別相談に応じる河井裕司事務長心得

様々な企業があるなかで、地元根づいて仕事を請け負い安定的に事業をしているところも多い。学生には「話を聞いてみるだけでもいい。そういう求人をもっと利用して」とアドバイスする。

学生からの就職に関する相談は、ミニトコムで予約を受付しているほか、直接窓口に来た学生に対しては、可能

行っている北海学園大学インターンシッププログラム(GIP)への参加者は多く、今年の参加者は約450人。また、企業への対応も大切な。大学側から訪問することはもちろんだが、採用担当者から学されることも多く、河井裕司事務長心得の記録では今年4月から10月までに約290件もの面談が行われた。



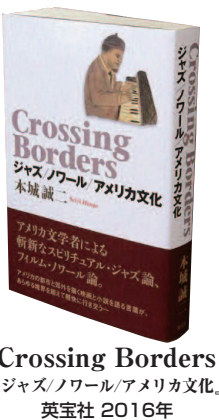
キャリア支援センターから学生や企業に配布している様々な印刷物

自著を語る 人文学部教授 本城 誠二

本書は二〇〇八年にはじめた「越境と郷愁」というブログで書いてきたアメリカ文化の映画・音楽・文学についての文章を一冊にまとめたものです。ブログの意図は、研究にはいたらないけれど単なる感想にとどまらないコメントを自分と読者にむけて発信することでした。

アメリカ文化を横断する

あり、論文のように掘りさげることができませんが、逆に日常的なスタンスと言葉でアメリカ文化を語ることはできたと思います。アメリカ文化って基本的にポップなのでこのようなカジュアルなスタンスが向いていると再発見をしたような気がします。アカデミック



『Crossing Borders ジャズ・ノワール/アメリカ文化』 英宝社 2016年

「アメリカ文化論として魅力的でユニークな書物―自由に、軽やかに越境する」という横断的な視点を持つ味である」と伊藤章氏(北海学園大学教授、アメリカ文学専攻)が「図書新聞」の書評に書いてくれました。こんな風に著者の意図を正確に理解してもらえることが一番うれしいです。この機会に本書を二

読頂ければ幸いです。

HOKKAIGAKUEN UNIVERSITY